



高岡 **北**  
ロータリークラブ  
TAKAOKA-NORTH  
ROTARY CLUB



例会日・毎週月曜日 12:30～13:30	創立・1980年5月19日	会長 上田 正宙
例会場・ホテルニューオータニ高岡	認証・1980年6月12日	幹事 長澤 貴士
	国内創立順位・1489	公共イメージ委員長 八塚 昌俊

## 第1994回 例会 1月 19日 (月)

### ◇点 鐘

### ◇国歌斉唱

### ◇ソング “四つのテスト”

### ◇ゲスト並びにビジターの報告

ゲスト：富山第一銀行高岡支店 舟見 智子 様  
// 伊藤 真由美 様  
受入交換留学生 アイザ君

### ◇会長挨拶並びに報告

皆様、改めまして明けましておめでとうございます。1月5日の新年例会、ぶっちぎりまして申し訳ありませんでした。その日の午前中まではちゃんと覚えていたのですが、夕方に干支の置物が空だったという2件の電話の対応をしていたらすっかり忘れしました。大変失礼いたしました。こんな会長ですが、よろしくお願いします。

今年は丙午という年回りで、一白という九星です。丙というのは、太陽の明るさを意味し、世の中明るくなるという意味があり、午年は躍動的、エネルギーという年です。60年に一度この組み合わせがあり、とにかく明るく元気でエネルギーです。ここから女性なら男勝りの子が生まれると言われ、たまたま八百屋お七が丙午の生まれだったのが広がり、丙午はあまりよくないと言われていました。なので、すごく人数が少ないです。また、一白という水が回ってきますので、重なると「露見の年」「発覚の年」と言われ隠しておきたいものほど表に出てくる年となり、隠そうと思うと逆に表に出ます。ただ、悪いものが表に出るといことは、そこで一度精算でき、うまい事処理できれば大吉が待っています。

### ◇ロータリー財団から表彰状と記念品が届きました

ポールハリスフェロー 海下 巧 会員  
// 島 幸美 会員  
第3回マルチプルポールハリスフェロー  
野尻信晴 会員  
第4回マルチプルポールハリスフェロー  
金田恒幸 会員

### ◇ホストファミリーに謝礼をお渡しする

### ◇1月在籍表彰

村牧啓功君 (22年)

### ◇1月結婚記念日祝い

新原俊夫君 (7日 53年) 宮崎外男君 (14日 47年)

### ◇1月誕生日祝い

金田恒幸君 (7日) 和田 徹君 (17日)

### ◇幹事報告

- 1) 本日例会終了後、1月定例理事会を開催します。
- 2) 次回、1月26日(月) 例会は前期報告となります。
- 3) 配布：①3月7日(土)開催「富山第4グループ 都市連合会」のご案内
- 4) 回覧：①ガバナー月信 NO.7  
②会報NO.18、19

### ◇ニコニコBOX 報告

#### 舟見様、伊藤様：お礼をニコBOXへ

上田会長：今年もよろしく申し上げます。

新年例会をすっ飛ばしましてごめんなさい。

勝山 功君：先週の新年例会、急に社用の為欠席しました。申し訳ありませんでした。改めましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

宮崎外男君：結婚記念日お祝いを頂いて、ありがとうございます。

【今年度ニコBOX 累計額 227,600円】

### ◇出席報告 出席者 22名 メイクアップ済 0名

名誉会員	会員数	本日の出席率	12/22 例会 修正出席率
1名	32名	81.48 %	87.5 %

# ◆本日のプログラム (担当：プログラム)

## 三人の友人卓話【金融】

### 『資産所得倍増プラン』と ファイナンシャル・ウェルネスについて

富山第一銀行高岡支店 舟見 智子 様  
伊藤 真由美 様

#### 自己紹介

#### 舟見 智子

出身地：富山市八尾町  
趣味：茶道 高岡で語り始めて3年目

新入 → 窓口・渉外 → 役員 → 支店長(管理職)

561年入行・窓口係・渉外係

H16下新支店支店長代理  
H19八尾支店支店長代理  
H22富山支店支店長代理  
H25事務経理システム部副課長

H27年 月岡支店支店長  
H29年 リーダー部 営業推進役  
R元年 大友支店支店長  
R3年 高岡支店 営業推進役

高岡・射水エリア担当

#### 伊藤 真由美

出身地：砺波市  
趣味：スポーツ観戦 カタレ山道を

新入 → 渉外・窓口 → 役員 → 支店長(管理職)

HS入行・渉外係・窓口係・副課長

H22年 高岡中央支店支店長代理  
H24年 丹波支店支店長代理  
H26年 中支店支店長代理

H30年人事企画部副課長  
R4年 広小路/中川・大野 富岡支店支店長  
R6年 高岡支店 営業推進役

高岡・氷見エリア担当

## 1-1. 「貯蓄から投資へ」日本経済の長期停滞からの脱却

1. 戦後～高度経済成長期 (1950～70年代)

キーワード：貯蓄は美德  
日本は戦後復興・高度成長のため家計貯蓄を重視

2. バブル期 (1980年代後半)

キーワード：投資ブーム  
金融自由化・円高対策でマネーが市場へ移・不動産が急騰  
個人も投資に参入(財テクブーム)

3. バブル崩壊後～デフレ期 (1990年代～2010年頃)

キーワード：投資ブーム  
金融自由化・円高対策でマネーが市場へ移・不動産が急騰  
個人も投資に参入(財テクブーム)

4. 「貯蓄から投資へ」の政策的登場 (2000年代～)

小泉政権(2001年～)  
金融ビッグプラン  
投資信託・確定拠出年金(DC)導入  
ただし浸透は限定的

5. アベノミクス以降 (2013年～)

本格的なスローガン化  
目標の達成先送り → 超低金利  
預金も増えない現実  
NISA(2014年)、iDeCoの普及  
GPIF(年金)が株式比率を大幅引き上げ  
「国が率先して投資する」姿勢へ転換

6. 岸田政権・新NISA (2022年～現在)

キーワード：国民の資産所得倍増  
2024年、新NISA開始  
所得倍増拡大  
円高化  
若年層・投資初心者が急増  
インフレ定着で貯蓄＝目減りの認識が広がる

## 1-2. 資産所得倍増プランの概要 (金融庁HPより抜粋https://www.fsa.go.jp)



## 1-3. 2026年は日本経済の歴史的分岐点

日本経済の現在地

2026年は、デフレに陥り得るか、持続的な成長軌道に乗るかの「歴史的分岐点」。

「コストを削る経済」から「付加価値と投資が成長を生む経済」への構造変化が進行中

政府の政策

責任ある積極財政による成長分野への集中投資

「強い経済」の実現を目的とした官民連携の加速

東証改革と市場の質的変化

東証の市場改革が奏功し、企業の経営効率意識が劇的に向上

「貯蓄から投資へ」の流れを決定づける資産運用立国の推進

ブロックチェーン技術やデジタル資産の普及を通じ、市場の透明性と利便性を向上

ETF(上場投資信託)の多様化により、広範囲な投資資金を呼び込む仕組みづくり

株価上昇の背景と期待

日経平均・TOPIXともに史上最高水準を更新

「天降神恩の高値更新」に向け、即時一掃崩れなどの投資減税を行い、政策面から強力にバックアップ

日本企業の人的資本投資や設備投資への意欲は過去最高水準

外部環境の変化に負けない、レジリエントな企業収益構造の確立

海外比較と日本の伸びしろ

他国(米・英)と比較しても、日本の家計金融資産(2,000兆円)の運用余力は極めて大きい

「貯蓄から投資へ」の取組みで米国の1,000兆円のリターンを生んでいるのに対し日本は10兆円規模、20倍の差はまだ大きな伸びしろがある

国内外の投資家から「かつてないほど注目」を浴びる市場へ

資産運用サービスの高度化とアセットオーナーの機能強化により、世界から資金を呼び込む

## 2-1. 資産所得倍増プランの概要

<目標>

① 5年間で、NISA積立額数(一般・つみたて)の倍増(1,700万から3,400万)、NISA買付額の倍増(28万円から56万円)

② その後、累計による投資額(株式・投資信託・債券等の合計額)の倍増を目指す。これらの目標の達成を通じて、長期的な目標として資産運用そのものの倍増も見込める。

<プランの方向性>

- 投資未経験者が投資を行わない理由として、「資産運用に関する知識がないから」、「購入・保有することに不安を感じるから」を改善する人が多いといった調査結果もある。このため、NISAなどの制度を踏まえてわかりやすく、使い勝手のよいものとするために、投資に関する知識不足の解消や不安の払拭に向けた取組みが必要。
- こうしたことを踏まえ、資産所得倍増に向けて、7本柱の取組を一体として推進する。

<7本柱の取組>

- 第一柱：家計金融資産の倍増を促すNISAの活用促進
- 第二柱：出入り関係の強化によるNISAの活用促進
- 第三柱：消費者向けに中立的な投資アドバイスを提供する仕組みの構築
- 第四柱：運用に対する信頼の醸成
- 第五柱：安定な投資環境の確保を目的とした金融政策の実施
- 第六柱：世界規模での投資機会拡大
- 第七柱：顧客サービスの向上

## 2-2. 雇用者の資産形成支援 「ファイナンシャル・ウェルネス」(第四の柱)

雇用者の資産形成支援に関する取組の積極的な開示を期待。

令和5年3月期から、人材資本に関する開示を有価証券報告書で義務付け。

企業による雇用者の資産形成の強化は、本年(令和5年)8月に公表した「人的資本開示指針」に示したとおり従業員エンゲージメントの向上にも効果的であり、「人的資本開示指針」も活用し、雇用者の資産形成を支援する取組を積極的な情報開示するよう企業に促している。(両用資産所得倍増プラン(令和4年11月26日策定))

サステナビリティ情報(人的資本を含む)の開示に関する内閣府の策定(2023年11月15日公表、抜粋)

企業による雇用者の資産形成の強化は、本年(令和5年)8月に公表した「人的資本開示指針」に示したとおり従業員エンゲージメントの向上にも効果的であり、「人的資本開示指針」も活用し、雇用者の資産形成を支援する取組を積極的な情報開示するよう企業に促している。(両用資産所得倍増プラン(令和4年11月26日策定))

人的資本開示指針(令和4年8月30日策定)

【参考】従業員エンゲージメントに関連する開示事項(例)

## 2-3. 金融経済教育の充実 (第五の柱)

<課題>

- 官民による様々な取組が行われているが、資産形成に関する金融経済教育が国民の隅々まで行われていない。
- 中心的な担い手である業界団体は、販売目当てと思われる教育、政府一丸として、省庁横断的に、家計の安定的な資産形成を実現するための施策を総合的に推進していくことが重要。

金融経済教育推進機構の設立や「基本方針」の策定については、関係省庁間で検討中。

<金融経済教育の充実>

- 中立的な立場から金融経済教育を提供する「金融経済教育推進機構」を、法律に基づき設置(2024年中)。
- その他、金融広報中央委員会(事務局：日本銀行)の機能を継承・承継するほか、関係団体の設備や設立・運営経費の確保に当たっては、政府・日銀に加え、金融・日経連等の民間団体からの協力が期待。
- 適切な役割分担の下、官民一体となり、金融経済教育を戦略的に実施。
- 機構の具体的な業務としては、以下を想定。
  - ① 金融経済教育の教材・コンテンツの作成
  - ② 学校や企業等への講座の展開
  - ③ 個人に対する個別相談
  - ④ 資産形成等に係る相談・助言を容易に受けられる環境整備(顧客の立場に立ったアドバイザー)

<省庁横断的な取組の推進>

- 資産形成支援に関する施策を関係省庁や地方自治体・民間団体等を通じて、国全体として総合かつ計画的に推進すべし、国家戦略としての「基本的な方針」を策定する。

## 3. 当行の取組み：金融経済教育 (第五の柱)

小学生向け金融教育事前講座

中学生・高校生向け金融経済教育事前講座

小学生向け金融教育事前講座

中学生・高校生向け金融経済教育事前講座

## 3. 当行の取組み

高岡支店 高岡プラザ

土・日・祝日も相談いただけます！

平日は休んでご来店いただくお時間がないお客様のために、土・日・祝日も営業しています。お客様のライフスタイルに合わせてごゆっくりご相談いただけます。

お取扱いメニューのご案内

ローコストの相談、資産形成の相談、投資に関する相談、サステナブルな投資、運用に関する相談、多様な資産形成